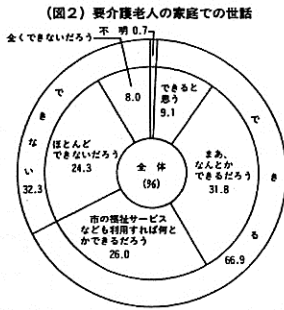
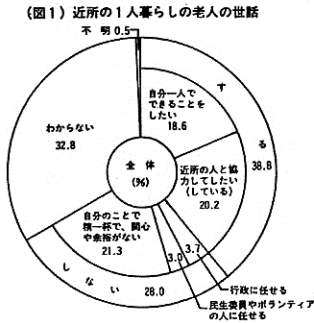


しよ。ねたきりの Y さんは
手ばかりお世話してはな
ず。近所の人はめつたに
訪問せらうさんですケン。
元気な時は、私ドンも世話
になりましたから」
(合川校区食事サービス)



◆久留米市が調査した設問
の中に「近所に一人暮らし
老人がおられる時、あなた
はお世話しますか」三人に
一人は「しない」と無関心

回答である。(図1)
「あなたの家に要介護者が
生じた時、あなたは面倒み
ますか」との設問に対して
三軒に一軒は「世話はでき
ないと回答している(図2)
この二つは、家族の介護力
と地域住民の協力度の低下
を窺い知る顕著なデータ
である。
ネットワーク活動は、自分
たちが誰のためにする活動
か、社協の姿勢も分かる活
動でもある。あなたのネッ
トワーク前線はどうなっ
ていますか。(老兵)



フリー トーク

ひと夏の経験
太宰府市社協
緒方 徹

志免町社協佐々木氏より
「八月一〇日までに『まなこ』原稿締めきりお願いします。との矢のような催促を心の片隅に、八月五日、韓国に出發した。
私の数少ないボランティア活動の一つとして、四年前から『太宰府少年の船』に参加している。事前研修は別として、本研修は丸五日間、子供たちと寝食を共にするため、四〇歳間近の私の目から見ると宇宙人？

の存在に近い現代っ子(小学五年生から中学二年生まで)に接近できる良い機会となっている。
今回は、二日目、三日目と韓国扶餘市でのホームステイ、キャンプと初めてのプログラムばかり。砂糖付け、ファミコン付けの子供たちがどのように順応できるか心配。早速一日目の研修が終わり夜になると、ホームステイへの不安から泣き出す子多数。先が思いやられる。
二日目、心を鬼にして？ホームステイ先のホストファミリー宅に子供たちを送り出した。後は大人だけの時間だが、ゆっくりする時間もなく現地関係者主催の歓迎レセプション。コンベ(乾杯)コンベの連発で韓国の高麗人参入り焼酎が右から左から前から後から頭上から。子供たちのことも気になるが、エイーノ郷に入っては郷に従え、と腰を落ち着けた。言葉はもろろん通じないが太宰府から来

た私達を心から歓迎してくれているのが痛いほど感じられた。
次の日、子供たちと一晩ぶりに会ってみると、すっかりファミリーの中に溶け込んでいる。食事、トイレ、風呂など生活習慣が違う中でこの順応ぶりは何なんだと思ってしまう。やはり彼等は私にとって宇宙人だった。しかし、子供だからできる技なのだとも思える。変に先入観を持つのはよくないと、つくづく思いしらされた。
二〇年以上も韓国は遅れていると素直に語る人、ベトナムで同じアジア人を一〇数名殺したとつぶやいた人など多くの出会いがあった。
自由テーマということで単なる旅行の感想文になってしまったが、平和にすっかり慣らされてしまった自分を反省するいい経験だった。



三人になつたけど

広川町社協
青山 忍

化の重要なポイントであるが、各町村の事情があり思う様にはいかない。

今年三人体制になつたが法人化して一七年もたつての実現である。筑後地区社協の会合の折、仕事はふえても人はふえないという問題が大きくクローズアップ、論議され、人ひとり増員するのがいかに大変であるか痛感させられた。本年四月

待望の局長―専門員―事務員という一応の体制は確立された。三人体制になつたのはいいが、今まで以上に自分の力量不足に不安は大きくなる毎日である。

一五年がたつた。市町村社協の基盤強化については、県社協も『地域福祉を推進するため、住民の主体的活動を促し支援する専門機関としての市町村社協の基盤強化を計画的に整備・強化する』とかかげられているし、新基本要綱(案)の中にも町村では最低四名の職員となつている様である。事務局体制の確立は基盤強

研修会等に参加してもその場限りがほとんどで、帰つたら机の上には仕事は山積、その事務処理に追われる日々で研修を生かすことも出来ずルズルと過ぎしてきた。三人になりしつかり頑張ろうという気持ちは充分に持つているのだが、悲しいかな勉強不足で何か手をつけていいのか暗中模索の状態で気ばっかりあ

せている。ただ一七年間、どんなに仕事は忙しくても自分の努力で何とか処理出来る仕事に取り組んで来たが、人ひとり増員した事により心にゆとりができ、ちよっぴりではあるが、事務局内ばかりではなく外にも目を向ける事が出来そうなのがしている。机上だけの仕事、仕事、仕事では目に入つても見えず、ましてや心の目までには届かず見逃す事ばかりで、社協事業等取り組む事はできないと思う。人ひとりの重みを痛感しながら自分の力量不足に悩んでいる昨今である。地域に合った福祉事業が実施できる様、勉強していきたいと思つていきますので、諸先輩のアドバイスをお願いします。

研修会に参加して…

北野町社協
野瀬 光治

去る、六月二五、二六日両筑地区社協専門員研修会を初めて、一泊二日で実施した。参加者は、田村会長始め七名(施設職員一名含む)と全員の出席がなく残念であつたが、実のある研修会であつた。研修先は皆さん御存じの山口県豊北町である。

山村専門員を交え意見交換の場を設定してもらつた。内容は今、盛んに進められている愛のネットワーク活動を中心に討議した。

この地区で福祉の輪づくり運動が展開できるようになつたとの事。ここで、初めて私が耳にしたことがあつたので、紹介します。それは、郵便局員が、郵便物の有無に関わらず独居老人へ愛の一声運動を実施していることです。豊北町では、地元の仕事がないため若者は年老いた親を残してふるさとを出ていく。そんなとき郵便局が地域に役立つことは何かと考へたそうです。郵便局は運搬業者でも金融業者でもない。地域文化の核だと思ふ。独居老人訪問は三五五日、町内を回つている郵便局にしかできない仕事。という局長の理解があつて進めてあるそうです。その他、各事業等について話し合いを行い、三時間余りの研修を終え、夜は近くのホテルに宿泊し、充分すぎるほど懇親会を行ない、すべての研修を終えた。

これからも、どしどしこのような研修会を続けてほ

しいものです。

「老い」社会の事実と現実

飯塚市社協
手塚 弘幸

先日、某テレビ放送で「二人だけで生きたかった」老夫婦心中事件の周辺」というドキュメント番組を見た。これは昨年の夏、東京に住む新潟県出身の七七歳になる夫が痴呆の進んだ六六歳の妻と入水し、無理心中をはかるといふ、現実にとりつた事件をもとに、死を決意した老夫婦の境遇と心中までの足どりを追いながら、その状況を克明に描いたものであった。

この老夫婦は、老後を穏やかに二人だけで生きたかった。しかし、突然に訪れた妻の「痴呆」によって、その願いがもろくも崩れ去ってしまった。夫の懸命の介護も限界に達し、その後、の長男夫婦との同居もそれを支える社会資源（ここでは特養）も二人の願いをかなえるものではなかった。

そこで二人は（正確には夫は）途方にくれ、「死出の旅」を選ぶというものであった。

それは、高齢化の著しい現代日本が抱える今日的問題を、事実を目の当たりにさせながら、いささかの妥協もなく告発する辛辣な内容を含んでおり、「福祉」に携わる者として、また一人の生活者として、とても他人事としては捉えがたい衝撃を覚えた。

私事ではあるが、結婚と同時に四人の親を持つことになった。つまり、私が長男であり、嫁さんが事実上の一人っ子だから、という以前に、今日の社会保障・社会福祉の貧困性（この責任の一端を身を感じつつも）故に、現実問題としてお互いの両親に将来、「介護」の問題が生じた場合には、第一義的に私たちが見ていかなければならない必然性を持つ。このドキュメントは、私たちのそうした将来の現実からの逃避を全く許さなかった。

ところで、日本における老夫婦世帯は、現在一四〇万世帯にのぼるといふ。

「老いたるは罪なのか」というこれらの人々たちによる暗黙の問いかけに明確に答えられない社会の仕組みがこれ以上続くならば、この悲しい事態が再生産されていくことは間違いないだろう。現に、こうした老夫婦の心中事件は決して珍しくなくなってきた。

老いた人々たちに対して、こうした憂慮すべき事態を許す社会は「たんに有罪であるだけでなく、犯罪的でさえある」のだということをお私たちはあらためて認識する必要がある。



福岡県専門員連絡会 新役員紹介

福岡県専門員連絡会役員

任期 平成三年四月 一日から
平成五年三月三十一日まで

役職名	氏名	所属社協
会長	内野 英雄	(宗像市社会福祉協議会)
副会長	山見 嘉昭	(山田市社会福祉協議会)
副会長	田村 吉彦	(吉井町社会福祉協議会)
監事	志水 秀則	(福岡町社会福祉協議会)
監事	中村 修	(上陽町社会福祉協議会)
幹事	松岡 次弘	(浮羽町社会福祉協議会)
幹事	水崎 浩幸	(前原町社会福祉協議会)
幹事	牧 雅仁	(玄海町社会福祉協議会)
幹事	津留 雅秀	(三橋町社会福祉協議会)
幹事	入江美千代	(筑穂町社会福祉協議会)
幹事	坂井由紀子	(那珂川町社会福祉協議会)

「まなこ」編集委員

任期 平成三年四月 一日から
平成五年三月三十一日まで

委員名	氏名	所属社協
編集委員長	松岡 次弘	(浮羽町社会福祉協議会)
副編集委員長	水崎 浩幸	(前原町社会福祉協議会)
編集委員	佐々木信哉	(志免町社会福祉協議会)
編集委員	鈴木 幸則	(若宮町社会福祉協議会)
編集委員	三根 伸高	(遠賀町社会福祉協議会)
編集委員	川波トミエ	(三輪町社会福祉協議会)
編集委員	梶原 重成	(星野村社会福祉協議会)
編集委員	小山千恵子	(山川町社会福祉協議会)

新人紹介

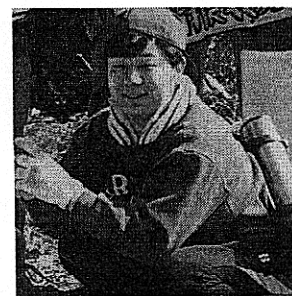


牧 雅仁
 玄海町社協
 ▼自称年齢
 生年月日と同じ数
 ▼特 技 はり手
 ▼専門員になつての経験年数

ピカピカ一年生
 ▼自分のセールスポイント
 奥二重まぶたのかわいい目!!
 ▼これからの抱負
 “福祉の花いっぱい”地球
 づくり。
 ▼メッセージ
 いっしょに、福祉の種をま
 きましよう!!

『飛行船・福祉号』に、
 ゆられ、ゆられて三千里!!
 やつてきました、玄海町!!
 先輩方に、おんぶされな
 ければ、歩けない未熟な私!!
 御指導のほう、よろしく
 お願い致します。

(写真は、職員旅行のも
 のです。局長、専任職員、
 ヘルパー、専門員。さあ、
 私こと「ハクシヨクン・大
 魔王」は、どこでしょう?)

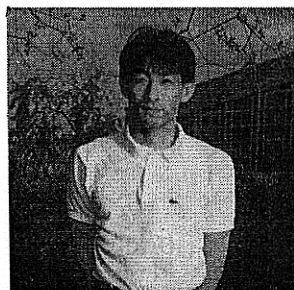


佐々木信哉
 志免町社協

▼自称年齢 二五歳
 ▼特 技 ギャンブル!
 ▼専門員になつての経験年数
 一年

▼自分のセールスポイント
 あまり後ろをふりむかない。

▼これからの抱負
 女王坪内局長を追い越せ、
 追い越せ
 ▼メッセージ
 “志免町の佐々木を知らん
 ちやもぐりぜ!”と言われ
 るぐらいがんばる!



水崎 浩幸
 前原町社協

▼自称年齢 二四歳
 ▼特 技

お酒を飲んだら気をうしな
 い人にめいわくをかけるこ
 と。



▼メッセージ
 研修会の分散会などでぼく
 に指名しないで下さい。
 ▼その他
 皆様こんなほくですけどよ
 ろしくお願い致します。(み
 すてないで下さい。)



肥田 剛
 二丈町社協

▼自称年齢 二三歳
 ▼特 技 特になし
 ▼専門員になつての経験年数
 四ヶ月

▼自分のセールスポイント
 気がやさしいがおつちよこ
 ちよい

▼これからの抱負
 みんなに親しまれる専門員
 に!

▼メッセージ
 専門員のみなさんよろしく
 お願いします。

▼専門員になつての経験年数
 五ヶ月
 ▼自分のセールスポイント
 笑つてごまかすこと。
 ▼これからの抱負
 福プロでもまれすぎたので
 一年間南の島で休みたい。



井上げ子

岡垣町社協

▼自称年齢 四一歳

▼特 技 あみもの

▼専門員になつての経験年数

平成三年四月

▼自分のセールスポイント

元気がよく、タフなこと

▼これからの抱負

私にできることを、少しずつ勉強しながら積み重ねていきたいと思っています。

▼メッセージ

先輩諸氏、よろしくご指導下さい。



佐々木真司

築城町社協

▼特 技 記憶力

▼専門員になつての経験年数

七ヶ月(平成三年四月)

▼自分のセールスポイント

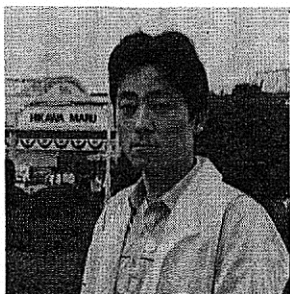
仕事も遊びも一生懸命

▼これからの抱負

福祉ばだけに数年間勤務しております。今春より社協の職員として、働かせていただくようになりました。経験を生かして、私なりのオリジナリティーができればと思っております。

▼メッセージ

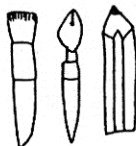
ビールが大好きです。



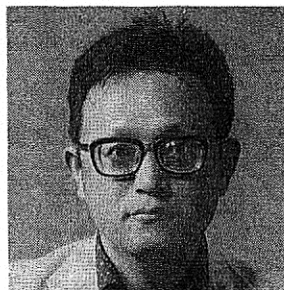
頑張ります！

三橋町社協 津留 雅秀

社協歴は四年を過ぎておりますが、専門員として一年。思うに、社協職員は福祉大学卒、または高校新卒で入った人は意外に少ないということ。違った分野で飯を食った人が何と多いことか。それだけ、人間的に幅がある世界だと解釈しています？幅があるかどうかは別として、そうい



う私も例に漏れず、民間会社の経験があります。しかし、現在は社協マンのはしくれとして日々忙しい毎日を送っています。それから私的なサークル活動としては、社会人の吹奏楽団に所属し、仕事を超えた仲間とも楽しくやっています。これからは、地域福祉が大きいくローズアップされてきている中で、諸先輩のご指導をおおきながら、よりよい地域づくりのために頑張っていきたいと思えますのでよろしくお願ひします。



只今ジレンマ、

でもフアイト

矢部村社協 栗原 三鶴

平成元年に社協が役場から今の事務局に移った時点で社協職員となり、事務局長をはじめ福祉には素人ばかりで発足し、翌二年には法人格の認可を受け、同時に専門員となるための認定講習に片道約三時間マイカーで通いました。

独立した今、やるべき事は山程ありますが、雑用に追われて専門的に動けないのが残念です。

しかし、村の福祉の向上を図るためにはまず自分が動かねばと、恵まれない処遇に喘ぎながらも自己啓発しながら、天職と思つて残



り少ない人生を真の福祉の実現をめざして頑張ってください。ありがとうございます。

先輩諸氏の御指導をよろしくお願いいたします。

新人の皆さんへのメッセージ

新人の皆さんの写真、どの方からも個性的な写真を提供していただきました。

でも、仕事をすすめるうえで「個性」って大切ですよ。ね。

それから、社協って、お酒を飲む機会がけっこう多いでしょう。ビックリ!!した新人の方がおられるのでは?

最初は「いえ!!あんまり飲めませんから.....」とコップを隠していました。それが、今では、なみなみと注がれた、あらゆるお酒のコップをはなさない始末。自分が怖い.....

新人の皆さん、酒をくみかわしながら、福祉を語りたいですネ。よろしく。

(ある社協職員)

まなこ 編集物語

初めての経験で、編集委員会でも頭の上を意見が飛びかい、私は張り子のトラみたいに感心と納得の首を振るばかりでした。

他の委員さん、本当にご苦労さまでした。

(A編集委員)

「まなこ」は、読ませる広報紙です!! この言葉

聞いた時、我が町の見せる広報紙とのギャップを感じ、大きな不安を持ちましたが、無事一回目が終わりました。これからも、ファイトです。

(B編集委員)

私が「まなこ」副編集委員

長に祭り上げられ早や四ヶ月あまり。編集委員の皆様をお恨み申し上げます。

なんとかやっております。専門員の皆様のご期待にそえる「まなこ」を作りたいと思いますので、ご

指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

(C編集委員)



*

六月、編集委員会が開かれました。この会議の最初の議題は、誰と誰が編集委員長、副編集委員長になるか.....この日は欠席裁判を恐れてか、全員出席.....

会議が始まる前は、話はずんでいたので、最初の議題が出されると、なぜか皆さん無口に.....

それで、みんなで考えた末、二人の方が勇らしく、引受けていただきました。ホッ!!

次回の会議は九月ごろの予定。この会議までに、各ブロックの委員が、責任をもって原稿を集めることとなる。

次の議題は、本号の企画編集について。決まったばかりの編集委員長さんを中心に、「これがいい!!」「あれがいい!!」の協議がつづき、企画ができあがり、ホッ!!とする。

月日のたつのは早いもの、アツという間に、もう九月。各ブロックからの原稿を、

「タイトルの字体はこうしよう!!」「このデザインはどうしようか?」と大忙し。作業が終わるころには、時計の針は一七時を大きく過ぎていました。朝から始めて夕方まで、大忙し。

でも、何となくやりとげた満足感に浸ることもできました。

苦勞して発刊したから、皆さん、噛み締めて読んで下さい。

(D編集委員)

編集後記 編集委員長からひとこと!!

今回は、新しい編集委員で作った「まなこ」です。編集委員は、ファイトあふれた方ばかりで、原稿もきちんと集めていただき、一二ページにも及ぶものが出来あがりしました。(最初だけにならないといいが?) これは、ひとえに編集委員の依頼を快く引き受け、原稿を出していただいた方々のおかげです。今後とも、いい紙面作りにおんばりますので、よろしく願います。

